まちづくりを学ぶ

竜丘地域づくりフォーラム開催

今年度の公民館事業の目玉として地域づくりフォーラムが計画されています。これは地域に目を向けるキッカケづくりのために分館も基盤として行っていくよう計画されたものです。そのスタートとなる記念講演会が、六月十日（月）夜、竜丘公民館で行われました。

当日はあいにくの小雨でしたが、会場には五十五人の参加者が集まりました。

講師には小布施町の関谷啓次さんをお招きしました。関谷さんは現在四十五歳、コンピューターのソフトウエアを扱う会社の代表取締役のかたわら、まちづくりの会社の取締役サロン部長として活躍されています。

まちづくりを行う株式会社というものは全国でもおそらく小布施だけだと思いますが、大変ユニークで、しかも実のある講演でした。

熱っぽく、地域づくりを語る

小布施は、年間百万人もが訪れる観光地で、栗菓子と葛飾北斎で有名です。ところが、昭和四十年代初頭までの小布施町は何もないただの農村地帯でした。

江戸時代から明治にかけては千曲川の船運の最終港として、穀物相場を左右するほどの市もたっていたそうですが、そんな賑わいも昔話しの町だったのです。

この小布施が、なぜ、今の小布施となり得たのか、興味のあるところです。

関谷さんのお話の中心は「小布施は先人の残してくれた資産や知恵に学んだ」そして「住んでいる人が住みやすい町にしたい」さらに「楽しく活動する」ということでした。

歴史的な経過は割愛しますが、昭和四十一年、モスクワでの北斎展に祭屋台を出品し絶賛を浴びたことで、それまで価値を知らず町中に散在していた北斎画を集め、収蔵しました。これが北斎館のもととなりました。

そして、昭和五十年代末から古い町並みを蘇らせる「修景事業」に取組みました。往々にして町並み保存事業は、保存だけに力を入れるため、居住者の生活が不便になることが多いものです。しかし、小布施は以前より住みやすい町に生まれ変わりました。「自分たちが気持ちいい町、だから小布施は、訪れる人も気持ちいい町なのです」と、関谷さんは語ります。同時に、小布施のまちづくりの原則―徹底した話合いを行うこと、事業の計画と運営などは住民が、工事などは行政が行うという方式が確立したとのことです。

そして今、多くのグループが交流しながらまちづくりの活動を行っています。時間、労力、そして私財を投じた活動は、「自分たちのまちだから」という意識に支えられています。さらに「楽しいから」とも。

「多くの人に参加してもらうためには楽しくなければ駄目です。だから楽しい仕掛けを考えます」―強制ではなく、楽しい活動が新たな交流を生み、活動の広がりになる―そんなことを学んだ講演会でした。

歩いて知ろう　ふるさとを

親子の広場 〝ふれあいハイキング〟

去る五月二十五日（土）五月晴れの下、新緑の中を歩き、草花や生き物を観察しながら、地域のこと、自然のことを学びあう、親子の広場―ふれあいハイキングが開催されました。

当日は、総勢五十名の参加があり楽しい一日をすごしています。

参加した竜丘小三年生高島かすみちゃんの作文を紹介します。

「―前略―まず砂漠みたいなところを目指して行きました。―略―その時蜂が飛んできておじさんにこんなことを習いました。「オスは黄色のところがあるからささないけどメスはないからさすよ」て教えてくれました。でも私は一つ発見しました。オスの方がこの辺は多いと発見しました。―略―次にめだかの田んぼを目指して歩き始めました。そこへついて、見たらうじゃうじゃいること。まるで砂みたいにめだかとお玉じゃくしとやごがいました。次にギフチョウ公園を目指して行きました。とっても涼しい所で休むには絶好の場所でした。

―略―次に頂上を目指して頑張りました。おじさんが言いました。「まむしが出るから気をつけろよ」とんでもないことを言いました。「まむしは二番目の人に襲うよ」と言ったので、六年生の人を二番目にしました。遊びながら頂上に着きました。すごく風通しが良くてとってもいい風が、吹いてきたりしました。―後略―」

日頃、車で移動することが多い今日ですが、たまにはふるさとを歩いてみませんか。

かわいいめだかがいっぱいいるよ！

実現に向けさらに前進

公民館建設委員会

今年度初めての竜丘公民館建設委員会が六月十四日に開かれ、公民館建設委員及び部員の選任の後、部会の構成と任務、今後の進め方などの協議が行なわれました。

選任された正副部会長は、次のとおりです。

総務部会（他の部会と兼務）は部会長に自治会長の岩崎傳一さん、副部会長に副自治会長である上川路区長の塚平清俊さんと公民館長の田中興さん。

土地対策部会長に前出の塚平清俊さん、副部会長に桐林区長の前島昭男さん。

施設部会長に、時又区長の河井辰雄さん、副部会長に長野原分館長の木下陸奥さん。

財務部会長に、社協竜丘分会長の澤柳昇さん、副部会長に長野原区長の今村明人さん、以上の方々です。

委員には自治協議会から二十二名、公民館から十六名、財産区議員二名、市議会議員二名、他に諸団体代表、学識経験者に参加いただいて総勢五十名で活動していくこととなりました。

任務については、総務部会は建設委員会全般に関することと、市や教育委員会等への渉外に関すること。土地対策部会は建設位置の検討、土地の交渉と取得に関すること。施設部会は建物の規模、部屋数やレイアウト等設計に関することと地元として調達する設備、備品等の検討、外構工事及び造園に関すること。財務部会は資金調達に関すること、地区積立等に関すること。以上が各部会の任務です。

今年度の委員会の進め方については、部会を中心に活動していくことが確認されました。

なお、女性の委員を増やしたらどうか、という意見があり、総務部会で検討することになりました。

委員会では、竜丘の未来にふさわしい、地域の誇りとなる公民館の建設に向け努力していきます。多くの皆さんのご意見をお待ちしています。

がんばってます

防火防犯婦人部

平成八年度になり、今までの「婦人防火防犯クラブ」から、「防火防犯婦人部」へと名称が変更となりました。

家庭から、火事や犯罪を出さないように、家事の中心である主婦が集まり、防火防犯の啓蒙普及活動を行っています。

主な活動ですが、毎月一日の防火広報をはじめとし、昨年度は、緊急連絡先が分かる「緊急電話メモ」の作成と全戸配布、ＪＲ駄科、時又駅の駐輪場周辺パトロールを実施しました。

この他、各地区単位の活動が盛んで、小学生による「火の用心」巡回や、防火アニメの上映、地震体験車への体験乗車、防火講話、救命講習会などが、活発に行われています。

これらの活動が認められ今年四月、飯田市防火防犯委員会より、模範活動地区の表彰を受けました。また、飯田市防火婦人クラブ研修会において、模範活動事例発表を行いました。

名称も新たになり、今後、さらに積極的な防火防犯活動が期待されます。

日赤奉仕団 県大会へ

〝救急法〟飯田市大会

去る二月に県体育館で行なわれた日赤奉仕団の救急法の飯田市大会で、竜丘チームが優勝し、来たる九月に上田市で開催される県大会に出場します。

日赤奉仕団では、日頃の活動の中で負傷者の救護に当たる為、救急員の方々が隔月に一回救急法の訓練をされています。その練習成果を競う大会が毎年二月に行なわれています。

今年も竜丘では救急員全員が技術を収得出来るように訓練を行なってきたそうですが、それがみことに実を結び、出場した二チームの内一チームが優勝、もう一チームが山本チームと二位を分け合うすばらしい成績を残されました。

一般的に救急・救護といえば白い包帯を思いうかべますが、実際には三角巾が使用されます。三角巾は傷の場所や負傷の仕方によって様々な応用がきき、すぐれた道具です。

その三角巾を使用して一人の患者に三人の救急員が、決められた時間内に指定された傷に対して、いかに正確に手当てするかを競いました。

さて注目の県大会ですが、開催場所が上田市という以外は通知がなくまだ未定との事です。また大会に向けての練習を七月に入ってから始めるそうです。県大会でも上位入賞を目指し頑張ってほしいものです。

速く正確に

人事

平成八年七月一日付の飯田市の人事異動に伴ない、四年三ケ月にわたり竜丘支所長として活躍された岡田昌伸さんが産業経済部農政課農務係長として転任されることとなりました。長年のご労苦に感謝し、新任地でのご活躍を祈念いたします。

尚、新任の支所長には、自治振興課自治振興係長の今井正治さんをお迎えします。（写真）

このたびの人事異動により、竜丘支所長として着任いたしました。竜丘地域の知識に乏しい私ですが、一日も早くこの地域を知り、とけ込み、地域活動のお手伝い役として、少しでもお役にたてるよう頑張りたいと思います。ご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。